

当病院は「虚血性心疾患患者におけるカテーテル治療後の多施設での臨床転帰及びリスク因子の調査」に参加しています

【研究の意義・目的】

日本における冠動脈疾患患者数は、動脈硬化危険因子に対する薬物治療が進歩した現在においても、増加傾向にあります。また、糖尿病、透析患者、高齢者の増加により、治療対象患者もよりハイリスクな患者背景を持つようになってきており、冠動脈疾患に対するPCIはより複雑な治療となる傾向にあります。近年の薬剤溶出性ステントの出現をはじめとするデバイスの進化とともに、治療成績が向上しているという報告もありますが、日本人における臨床転帰などを含めた中長期成績について、未だ十分には明らかになっていません。

本研究は、カテーテル治療をした虚血性心疾患の患者さんにおける治療後の症状・経過がどうであったかを調査し、新しいステントの治療効果や、冠動脈疾患における危険因子などを調査することです。これらの調査により、虚血性心疾患の病態と治療の実態をより理解し、今後の治療に貢献することができると考えています。

【研究の対象・期間・内容】

虚血性心疾患と診断され、担当医師がカテーテルによる治療を行うことが適切と判断した年齢が20歳以上の方を対象とします。ただし、その他の合併症や治療経過により、担当医師が不適切と判断した患者さんは除きます。

この研究は、平成29年1月1日から平成38年12月31日まで行われます。

この研究は通常の診療を受けている中で発生した情報（年齢、性別、既往歴などの患者背景、治療に関連した情報、ステント血栓症発症時の臨床背景など）の収集を主体とした研究のため、患者さんに日常診療以外の身体的及び経済的負担が生じることはありません。なお、この研究の責任者は東京女子医科大学病院 循環器内科 萩原誠久 です。

【個人情報の管理について】

個人情報漏えいを防ぐため、お名前、住所などの個人を特定する情報は削除した上で、厳重に管理を行い、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の結果の公表（学会や論文等）の際にも個人が特定できる情報は一切含まれません。この研究に関わる記録・資料は研究終了後5年間（もしくは公表後3年間）保存した後、適切に破棄いたします。

【利益相反について】

この研究において、患者さんの利益と研究者や企業の利益が相反する状態になることはありません。また、この研究は通常の保険診療の範囲内で行われ、本研究に関する保険診療外の資金は必要としていません。

【連絡・問い合わせ先】

この研究に関する相談やお問い合わせ（研究資料の入手方法を含む。）、またはご自身の診療情報につき開示または訂正のご希望がある場合は、下記連絡先までご連絡ください。なお、この研究の対象者となることを希望されない場合は、お申し出ください。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

研究責任者：東京女子医科大学 循環器内科 教授 講座主任 萩原 誠久
研究担当者：東京女子医科大学 循環器内科 助教 重城 健太郎
住所： 東京都新宿区河田町 8-1 心臓血圧研究所棟 201 号室
連絡先：03-3353-8111(代) 内線 24225

当院責任者：済生会熊本病院 循環器内科 部長 坂本 知浩
研究担当者：済生会熊本病院 循環器内科 曾根 麻衣子
住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号
連絡先：096-351-8000(代)